

6章 平成27年度行事・集会活動の記録



電一郎先生のふしぎ電気実験教室

(1) 行事・集会活動

中央図書館

児童向け行事	回数	参加人数
かみしばいのじかん【通年】	73回	988人
絵本読み聞かせ体験【通年】	15回	626人
おやおたのしみ会【通年】	10回	234人
おはなしのじかん【通年】	10回	230人
えほんのじかん【通年】	10回	194人
はるのおはなし会【4月】	1回	31人
子ども読書の日 わくわくコンサート【4月】	1回	30人
子ども読書の日 えほんのじかん【4月】	1回	17人
子ども読書の日 スペシャルかみしばい【4,5月】	3回	72人
第27回めだかの学校環境祭り【5月】 (移動図書館3号車 運転手1名 司書3名参加)	1回	79人
子ども読書の日 人形劇【5月】	1回	67人
子ども読書の日 おはなしのじかんスペシャル【5月】	1回	15人
子どもの日スペシャル かぶとをつくろう!【5月】	1回	14人
みどりの日スペシャル 緑のカーテン大作戦!【5月】	1回	10人
子ども映画会【5,8,9月】	3回	92人
人形劇【6,1~3月】	4回	251人
ロボット博士になろう!【7月】	1回	52人
つくろう!かざろう!たなばたかざり【7月】	1回	50人
棒と輪ゴムで家をつくろう!【7月】	1回	36人
大型かみしばい【7月】	1回	28人
ゴーヤ収穫祭【7月】	1回	9人
ぶるっとこわいかみしばいのじかん【8月】	2回	31人
トロイの木馬をつくろう! (オリエント美術館連携行事)【8月】	1回	75人
なつのおはなしの会【8月】	1回	43人
岡山で平和について考えよう【8月】	1回	42人
中央図書館バックヤードツアー【8月】	1回	5人

ハンゲルでえほんのじかん【9月】	1回	22人
こうさくのじかん【9月】	1回	10人
読書週間 えほんのじかんスペシャル【10月】	1回	28人
読書週間 ぶっく・ブック・BOOK【10月】	1回	25人
読書週間 スペシャルかみしばいのじかん【10,11月】	4回	120人
わくわく子どもまつりin岡山ドーム【11月】 (移動図書館3号車 運転手1名 司書3名参加)	1回	96人
英語でえほんのじかん【11月】	1回	51人
読書週間 腹話術【11月】	1回	30人
読書週間 おたのしみ会【11月】	1回	28人
科学のとびら【11月】	1回	21人
焼き芋大会出張読み聞かせ(岡輝公民館)【11月】	1回	13人
読書週間 おはなしのじかんスペシャル【11月】	1回	11人
司書のお仕事体験【11月】	1回	6人
クリスマス会【12月】	1回	61人
クリスマスを飾ろう!【12月】	1回	42人
年はじめ 筆をつかって書きちゃおう!【1月】	1回	130人
ふゆのおはなし会【1月】	1回	63人
鬼にへんし〜ん!【1月】	1回	30人
子そだておうえんハッピータイム【2月】(本 DAISY 展示、読み聞かせ等)(岡山ふれあいセンター)	1回	65人
おひなさまを作ろう!【2月】	1回	30人
ぶっく・ブック・BOOK【2月】	1回	12人
一般向け行事	回数	参加人数
古文書を読む会【通年】	21回	743人
音訳ボランティア上級講座【通年】	12回	230人
名作映画会【通年】	11回	566人
郷土岡山を学ぶ上映会【通年】	11回	348人
音訳ボランティア初級講座【4~10月】	14回	141人
講演会「赤ちゃんの絵本」【3月】	1回	40人

施設利用 70回

幸町図書館

児童向け行事	回数	参加人数
おはなしの会【通年】	22回	312人
親子おたのしみ会【通年】	19回	222人
おたのしみ会【通年】	16回	206人
絵本読み聞かせ体験【通年】	12回	368人
えほんのじかん【通年】	11回	155人
金ようおたのしみ会【通年】	9回	69人
アンサンブル・ミニコンサート【4月】	1回	38人
子どもの読書週間 おたのしみ会【4月】	1回	17人
子どもの読書週間 おたのしみ会スペシャル 【4月】	1回	14人
子どもの読書週間 おはなしの会【4,5月】	2回	23人
腹話術【5月】	1回	47人
子どもの読書週間 えほんのじかん【5月】	1回	7人
ミュージックベル・トーンチャイムのミニコンサート 【6月】	1回	36人
小学生のためのおはなし会【6,10月】	2回	44人
こわ〜いおはなしの会【7月】	1回	38人
子ども科学教室【7月】	1回	35人
中国語でえほんのじかん【7,1月】	2回	32人
ロボット博士になろう！【8月】	1回	63人
リサイクル教室【8月】	1回	18人
こども映画会【8,12月】	3回	70人
朗読のじかん【8,1月】	2回	40人
アコーディオン・ミニコンサート【9月】	1回	25人
人形劇【9,3月】	2回	64人
篠笛・ミニコンサート【10月】	1回	23人
でこぼこカーニバル-山陽女子校×幸町図書館 読 み聞かせコラボ会【10月】	1回	18人
影絵【11月】	1回	44人
どうぶつの森アンサンブル・ミニコンサート【11月】	1回	33人
ハンゲルでえほんのじかん【11月】	1回	11人
こどもクリスマス会【12月】	1回	71人

クリスマスおたのしみ会【12月】	1回	48人
新春・本の福袋(1/5開館より30袋)【1月】		
琴・尺八・ミニコンサート【1月】	1回	31人
英語でえほんのじかん【2月】	1回	35人
チェロ・ミニコンサート【3月】	1回	31人
ギター&マンドリン・ミニコンサート【3月】	1回	28人
一般向け行事	回数	参加人数
映画会【通年】	81回	2,062人
古典を楽しむ会【通年】	23回	342人
名作映画会【通年】	12回	283人
文章教室【通年】	12回	90人
大人のためのおはなし会【5,11月】	2回	149人

施設利用 177回

浦安総合公園図書館

児童向け行事	回数	参加人数
えほんのじかん【通年】	45回	450人
かみしばいのじかん【通年】	20回	201人
おはなしのじかん【通年】	12回	93人
子どもの読書週間 かえるまつりだ！あそびにおいて【5月】	1回	8人
読書週間スペシャル 『日本のヒーローあつまれ！』【11月】	1回	5人
一般向け行事	回数	参加人数
浦安図書館読書サークル【通年】	11回	50人

伊島図書館

児童向け行事	回数	参加人数
おたのしみ会【通年】	9回	71人
クリスマスおたのしみ会【12月】	1回	32人

建部町図書館

児童向け行事	回数	参加人数
おはなし会スペシャル【4月】	1回	10人
子どもビデオシアター【5月】	1回	2人

出張おはなし会(保育園等)【5,7,9,11,2月】	5回	64人
2015 としょかんフェスティバル【7月】	1回	40人
出張絵本の紹介(赤ちゃんすこやか相談にて)【7月】	1回	20人
えほんのじかん【8,10,1月】	3回	7人
おはなし会【8,2月】	2回	4人
クリスマス☆おたのしみかい【12月】	1回	6人

御津図書館

児童向け行事	回数	参加人数
おはなしかい【通年】	22回	289人
おはなしかいスペシャル【4,10月】	2回	47人
読書フェスティバル【7月】	1回	46人
一般向け行事	回数	参加人数
大人のシネマ(名作上映会)【通年】	11回	141人

瀬戸町図書館

児童向け行事	回数	参加人数
おはなし会【通年】	32回	188人
おはなしのじかん【通年】	8回	81人
春のおたのしみ会【4月】	1回	24人
おはなし会スペシャル【4月】	1回	7人
おはなしのじかんスペシャル【4月】	1回	2人
レトロ遊びをしよう【5月】	2回	60人
おたのしみ会【5,8,10,1月】	4回	24人
全国訪問おはなし隊 キャラバンカー見学・おはなし会【6月】	1回	54人
こども映画会【8月】	1回	28人
煮干しの解剖教室【8月】	1回	25人
こわいおはなしのかい【8月】	1回	9人
お月見コンサート【10月】	1回	14人
クリスマス会【12月】	1回	26人
冬のおたのしみ会【12月】	1回	21人
「waiwai ♪カフェ」のクリスマス会 (絵本の紹介など)(瀬戸公民館主催)【12月】	1回	16人

マリンバコンサート【1月】	1回	90人
絵本の読み聞かせについての話とおはなし会 (児童館ゆう遊プラザ「くれよんクラブ」にて)【2月】	1回	27人
藤城清治 影絵の世界【2月】	1回	10人
二胡 演奏会【3月】	1回	46人
ひなのおはなし会【3月】	1回	9人
一般向け行事	回数	参加人数
だから雑誌『現代農業』はおもしろい！ (瀬戸公民館共催)【11月】	1回	33人
ペーパーフラワー体験教室【11月】	1回	10人
せとブックカフェ(瀬戸公民館共催)【2月】	1回	17人

灘崎図書館

児童向け行事	回数	参加人数
おはなしのへや【通年】	21回	136人
絵本読み聞かせ体験【通年】	7回	43人
子ども映画会【5,10,11,2,3月】	5回	176人
おはなしひろば【6,10,3月】	3回	219人
夏休み子ども映画会【7,8月】	2回	180人
しいたけさんによる読み聞かせ【11月】	1回	20人

西大寺緑花公園緑の図書室

児童向け行事	回数	参加人数
えほんのじかん【通年】	44回	578人
かみしばいのじかん【通年】	12回	213人
絵本から飛び出したお菓子作り【4月】	1回	25人
絵本読み聞かせ体験【4,11月】	2回	31人
春のこども会【5月】	1回	28人
夏休み科学工作教室【7月】	1回	36人
子ども映画会【8月】	1回	69人
ふしぎ電気実験教室【8月】	1回	56人
夏のこども会【8月】	1回	45人
図書館ナビ(低学年)(8/5,8/6)【8月】	1回	5人
図書館ナビ(高学年)(8/19,8/20)【8月】	1回	5人
秋のこども会【10月】	1回	49人

影絵劇【11月】	1回	52人
冬のこども会【1月】	1回	36人
人形劇【2月】	1回	70人
棒と輪ゴムで家をつくろう！【3月】	1回	56人
一般向け行事	回数	参加人数
名作映画会【通年】	12回	2,188人
ビブリオバトル【5月】	1回	21人
ボランティア養成講座 「布絵本を作ってみませんか？」【10,11月】	8回	46人
教養講座「西大寺たてもの歩き」【2月】	1回	46人

(2) 展示

中央図書館（2階展示コーナー）

「地球環境問題ポスターコンクール作品展」	3/14～4/5
「岡山空襲と国富文庫～戦災をくぐり抜けた城下の記録～」	6/9～7/3
「沖新田・地域の歴史を伝える～ 『沖新田一座』の演劇活動に寄せて～」	7/7～8/7
「国吉康雄とふるさと岡山」	9/12～11/8
「街のにぎわい オリент美術が紹介された頃」 (オリент美術館共同開催) (会場:オリент美術館)	11/17～12/27
「村人たちが迎えた明治維新 地租改正前後」	12/18～1/24
「坪田譲治展～第31回坪田譲治文学賞記念 坪田譲治をめぐる挿 絵・装丁画家たち」	1/28～3/6
「地球環境問題ポスターコンクール作品展」	3/12～4/3

御津図書館

平成27年度教科書展示会	6/19～7/4
--------------	----------

瀬戸町図書館

「瀬戸町ゆかりの作家展」	6/2～6/7
「せとのひなまつり」	3/25～4/3

(3) 視察・見学等

中央図書館

職場体験(中学生・高校生)	9回	18人
学生ボランティア(大学生)	6回	延10人
仕事体験活動(中学生)	2回	延2人
インターンシップ(大学生)	1回	1人
見学(園児・児童・中学生)	4回	140人
視察(大学教員)	1回	1人

幸町図書館

職場体験(中学生)	3回	6人
見学(児童・中学生)	6回	435人
視察(大学教員)	1回	1人

浦安総合公園図書館

見学(園児・児童)	3回	126人
-----------	----	------

建部町図書館

職場体験(中学生)	1回	2人
-----------	----	----

御津図書館

職場体験(中学生)	1回	2人
見学等(園児・児童・児童クラブ)	6回	169人

瀬戸町図書館

職場体験(中学生)	2回	6人
学生ボランティア(大学生)	2回	延2人
見学(園児)	4回	159人

灘崎図書館

見学(児童)	2回	128人
視察(市議ほか)	1回	6人

西大寺緑花公園緑の図書館

職場体験(中学生)	2回	3人
見学(児童)	5回	142人

(4)岡山市子ども読書活動推進委員会事務局業務

(1)子ども読書関連グループ出張活動の問い合わせ	11回
(2)ボランティア活動希望等の問い合わせ	4回

(5)当館所蔵貴重資料の出陳・出版物への掲載等

資料名	利用者	利用方法・用途
「焼夷弾爆撃ニ依ル焼失状況」	岡山空襲展示室	「つないでいく記録と記憶」(H27.6.12～7.5)へ出陳
「戦災復興岡山市の図」(屏風)	岡山空襲展示室	「つないでいく記録と記憶」(H27.6.12～7.5)へ出陳
「空襲の思い出」	岡山空襲展示室	「つないでいく記録と記憶」(H27.6.12～7.5)へ出陳
佐藤一章作のスケッチ(13枚)	岡山空襲展示室	「つないでいく記録と記憶」(H27.6.12～7.5)へ出陳
岡山城焼失前の天守閣の写真(『アルバム 建造物(岡山城、月見櫓)』)	山陽新聞社	山陽新聞朝刊(6月下旬予定)に掲載(画像データ)
	かみゆ	『よみがえる名城(仮)』(H27.7出版)に掲載(画像データ)
「浮世絵美人の図」(島村澹山)	コンテンツ	肉筆浮世絵のデジタル撮影。データを1年間、イベントブース展示会場等で使用
「さまざまな苗字」	RSK ラジオ	「朝です。全員起立！」(H27.8.27)の番組資料
『胎産新書』『三痘安危弁』	岡山県立記録資料館	平成27年度企画展「岡山PRIDE」(H27.10.20～11.22)に出陳。図録等へ掲載
『三痘安危弁』	山陽放送学術文化財団	日蘭協会連続シンポジウム「岡山蘭学の群像」の書籍化(H28.4)にあたり使用(画像データ)

「備前軍記」	ベストセラーズ	『歴史人』2016年1月号に掲載(画像データ)
「高松城水攻築堤の図」	ネクサス	テレビ東京「開運！なんでも鑑定団」(H27.7.21 放送)で放映(画像データ)
	創輝	日本テレビ「ラストクライマックス」(H27.8.2 放送)で放映(画像データ)
	ネクサス	BS-TBS「にっぽん！歴史鑑定」(H27.9.28 放送)で放映(画像データ)
	テレビ朝日	テレビ朝日「クイズプレゼンバラエティーQさま!!」(H28.2.1 放送)で放映(画像データ)
	RCC プロンティア	RCC 中国放送「知将が築いた海の城」(H28.2.28 放送)で放映(画像データ)
永瀬清子氏スピーチ写真	岡山シティミュージアム	「岡山を記すー坪田譲治と永瀬清子」(H27.9.29～10.18)で展示(画像データ)
三幡鉄道の写真(『郷土歴史アルバム(交通)』収録)	山陽映画	「三幡軽便鉄道開通100周年記念大会」(H27.9.5～9.6)で上映する映画内で使用(画像データ)
「岡山区市街図 明治 20 年」ほか 4 点	岡山市教育委員会 ESD コーディネーター	岡山市内小学校の総合的な学習の時間で使用(画像データ)
引札ほか 106 点	岡山市立オリエント美術館	企画展「街のにぎわい オリエント美術が紹介された頃」(H27.11.17～12.27)に出陳
「沖新田東西之図」	富山学区連合電子町内会運営委員会	写真集『昔とみやま写真館』(H27.12.1 発行予定)とホームページに掲載(画像データ)
	福泊電子町内会運営委員会	ホームページに掲載(画像データ)
「合同新聞」紙面 1945 年～1947 年(172 点)	山陽新聞社	「山陽新聞社-アーカイブス」に利用(画像データ)
坪田譲治の写真(「坪田文庫」写真パネル)	岡山市文化振興課	「おかやま文学フェスティバル2016」のリーフレットに掲載(画像データ)
「国富文庫」収蔵資料	山陽堂	社史(DVD 版・冊子版)制作のため(画像データ)

思い出のページ



昭和 62 年 8 月 25 日
おかやまを語る会



昭和 62 年 12 月 1 日
まっついりのりこさん講演会

平成 2 年
幸町図書館仮設館の様子



平成 2 年 4 月 14 日
浦安総合公園図書館外観



平成 2 年 3 月 7 日
浦安総合公園図書館の様子

平成 2 年 5 月 25 日
幸町図書館安全祈願祭



7章 100周年記念行事の記録



図書館の自由パネル展
(岡山市立幸町図書館にて開催)

(1) 100周年関連行事一覧

館名	日時	行事(講演)名等	出演者、連携先等	参加人数
中央図書館	平成28年 3月16日(水) 15:00～16:30	講演会「赤ちゃんの絵本」	元福音館書店専務取締役 田中秀治氏	40人
	7月18日(月) 15:00～15:45	ロボット博士になろう！	岡山大学ロボット研究会	62人
	8月10日(水) ～ 9月18日(日) まで募集	図書館川柳コンテスト	審査員：久本にい地先生 (岡山県川柳協会顧問)、 館長、図書館職員	応募数348句 応募人数169人 受賞者数6人
	10月15日(土) 15:00～15:30 授賞式	ココロつながる 読みきかせフォトコンテスト	審査員：池原繁延先生 (視聴覚ライブラリー)、 各館館長、図書館職員	応募数37点 応募人数23人 受賞者数4人
	8月18日(木) 配布開始	「読書通帳」の作成	デザイン：岡山県立岡山 工業高等学校デザイン科 生徒	5000枚印刷
	8月21日(日) 14:00～16:00	電一郎先生の ふしぎ電気実験教室	環境学習センター「アス エコ」講師 電一郎先生	35人
	9月10日(土) 15:00～15:30	中国語でえほんのじかん	張宇さん 図書館職員	21人
	10月8日(土) 13:30～15:00	ノートルダム清心学園理事長 渡辺和子先生講演会 ～咲くということ～	ノートルダム清心学園 理事長 渡辺和子先生	102人
	11月9日(水) 16:00～17:00	ファジの選手と一緒に えほんを楽しもう！	久木田選手、加地選手 (ファジアーノ岡山) 図書館職員	44人
	11月20日(日) 15:00～15:30	英語でえほんのじかん	国際交流ボランティア、 図書館職員、岡山市国際 交流協議会との共催	46人
平成29年 3月20日(月) 14:00～16:00	岡山藩主池田家旧蔵資料の伝来 と意義	一般財団法人林原美術館 学芸課長 浅利尚民先生	31人	
幸町図書館	平成28年 7月14日(木) 10:30～11:00	うごいてたのしい ノリノリおたのしみ会	エリアベネッセ岡山駅前 店スタッフ、職員	19人
	7月23日(土) 14:00～15:30	夏休み子ども科学教室	楽しい科学を広める会の 先生	37人

館名	日時	行事(講演)名等	出演者、連携先等	参加人数
幸町図書館	7月24日(日) 14:00～15:00	こわーいおはなしの会	岡山ストーリーテリング研究会	34人
	7月30日(土) 15:00～15:30	朗読のじかん	朗読グループ「花音」	21人
	7月31日(日) 15:00～15:30	英語でえほんのじかん	国際交流ボランティア、職員	38人
	8月4日(木) 15:00～15:45	ロボット博士になろう	岡山大学ロボット研究会	40人
	8月19日(金) 15:00～16:00	のぞいてみよう！ミクロの世界	エリアベネッセ岡山駅前店スタッフ	15人
	8月20日(土) 15:00～16:00	電一郎先生のふしぎ電気実験教室～LEDストラップライトを作ろう！	環境学習センター「アスエコ」講師 電一郎先生	18人
	9月1日(木)～ 10月6日(木)	図書館の自由パネル展		
	9月17日(土) 15:00～15:30	篠笛ミニコンサート	浩龍さん(桜笛会)	18人
	9月28日(水) 14:00～14:30	うごいてたのしい ノリノリオたのしみ会	エリアベネッセ岡山駅前店スタッフ、図書館職員	13人
	10月8日(土) 15:00～15:30	アコーディオンミニコンサート	岡山アコーディオンクラブ	40人
	10月29日(土) 15:00～15:45	人形劇	三門だんご	39人
	10月30日(日) 14:00～15:00	小学生のためのおはなし会	岡山ストーリーテリング研究会	9人
	11月5日(土) 15:00～15:30	読書週間えほんのじかん	岡山県子ども文庫連絡会	10人
	11月6日(日) 15:00～15:30	読書週間おはなしの会	岡山ストーリーテリング研究会	15人
	11月12日(土) 15:00～15:40	影絵	影絵サークルくれよん	19人

館名	日時	行事(講演)名等	出演者、連携先等	参加人数
幸町図書館	11月17日(木) 【午前の部】 10:00～12:00 【午後の部】 13:00～15:00	おとなのためのおはなし会	岡山ストーリーテリング研究会	100人
	11月19日(土) 15:00～15:30	おはなし大うんどうかい	山陽女子中学校・高等学校図書委員	22人
	11月27日(日) 15:00～15:30	どうぶつの森アンサンブルミニコンサート	どうぶつの森アンサンブル	27人
	12月7日(水) 15:00～15:30	うごいてたのしい ノリノリオたのしみ会	エリアベネッセ岡山駅前店スタッフ、図書館職員	26人
	12月10日(土) 14:00～15:30	クリスマスおたのしみ会	岡山県子ども文庫連絡会	36人
	12月17日(土) 15:00～16:00	こどもクリスマス会	大学児童文化部	59人
	平成29年 1月14日(土) 15:00～15:30	ハングルでえほんのじかん	国際交流ボランティア、図書館職員	19人
	1月22日(日) 15:00～15:30	朗読のじかん	朗読グループ「花音」	21人
	1月28日(土) 15:00～15:30	琴・尺八ミニコンサート	箏曲絃友会	25人
	2月1日(水) 15:00～15:30	うごいてたのしい ノリノリオたのしみ会	エリアベネッセ岡山駅前店スタッフ、図書館職員	19人
	2月26日(日) 15:00～15:30	英語でえほんのじかん	国際交流ボランティア、図書館職員	27人
浦安図書館	平成29年 2月12日(日) 11:00～11:30	かみしばいのじかん	はなみずき	7人
御津図書館	平成28年 4月23日(土) 14:00～15:00	おはなしかいスペシャル 「おばけのおはなし」	なかよしほんだな	16人
	10月22日(土) 14:00～15:00	おはなしかいスペシャル 「ハロウィンのおはなし」	なかよしほんだな	26人
瀬戸町図書館	平成28年 4月30日(土) 14:00～14:45	春のおたのしみ会	環太平洋大学 幼児教育研究会	22人

館名	日時	行事(講演)名等	出演者、連携先等	参加人数
瀬戸町図書館	6月7日(火) 10:30~12:00	簡単デコパージュ教室 すてきな缶づくり	甲矢礼子さん	14人
	6月25日(土) 14:00~14:30	絵本でドキドキ! ~みんなで男女共同参画を考えよう~	絵本専門士(図書館職員)	3人
	7月23日(土) 14:00~15:00	瀬戸ライブラリーコンサート	木管アンサンブル万富	39人
	7月31日(日) 14:00~14:30	夏のおたのしみ会	児子千鶴子さん	30人
	8月10日(水) 10:30~12:00	簡単デコパージュ教室 かわいい缶づくり	甲矢礼子さん	19人
	8月25日(木) 14:00~15:00	こわいお話の会	ふくろう文庫	11人
	9月23日(金) 15:00~15:40	お月見ミニコンサート	花音	19人
	10月6日(木) 10:30~12:00	ネコのマスコットを作ろう!	高取澄子さん	7人
	11月5日(土) 14:00~14:30	秋のおたのしみ会	環太平洋大学 幼児教育研究会	16人
	12月10日(土) 11:00~12:00	クリスマスおたのしみ会	積み木の会	37人
	12月24日(土) 10:30~12:00	電気のおもしろ実験教室	中国電力の方	20人
平成28~29年 ①6月9日 ②7月14日 ③9月8日 ④11月10日 ⑤12月8日 ⑥1月12日 (木) 10:30~12:00	読書ボランティア ステップアップ連続講座 (全6回)	①絵本専門士 (図書館職員) ②梶谷恵子さん ③横溝道江さん ④佐溝美和子さん ⑤山田洋子館長 ⑥絵本専門士 (図書館職員)	① 10人 ② 20人 ③ 14人 ④ 16人 ⑤ 11人 ⑥ 11人	
西大寺緑花公園 緑の図書室	平成28年 5月14日(土) 15:00~16:30	講演会「子どもたちに届けたい!絵本の魅力」	絵本作家 サトシンさん	78人

館名	日時	行事(講演)名等	出演者、連携先等	参加人数
西大寺緑花公園 緑の図書室	7月27日(水) 15:00~16:00	夏休みスペシャル えほんのじかん	ほのぼのあおむし	71人
	7月28日(木) 7月29日(金) 8月5日(金) 9:30~12:00	図書館ナビ 夏休み司書体験	緑の図書室職員	14人
	8月4日(木) 10:00~11:00	夏休み科学工作教室	西大寺子どもライブラ リークラブ ゆうこ先生	36人
	8月17日(水) 10:30~11:30	消防士さんの かみしばいのじかん	岡山市東消防署職員 緑の図書室職員	110人
	8月18日(木) 11:00~11:45	こども映画会		72人
	平成29年 3月5日(日) 14:00~15:30	文学講座 「詩のときめきをあなたに」	成本和子氏	21人

思い出のページ



昭和41年10月16日
創立50周年記念文化講演会
講師 坪田譲治氏

(2) 講演会・展示等

○講演会「赤ちゃんの絵本」

日時：平成28年3月16日（水）15:00～16:30

場所：中央図書館 視聴覚ホール

講師：元福音館書店専務取締役 田中秀治氏

参加人数：40人

赤ちゃんにどのような絵本を、どのように与えたらよいかについて、月刊絵本「こどものとも0.1.2」創刊からの体験を交えて田中秀治氏にお話いただきました。

絵本という体験を親子で共有することの大切さ、豊かさを改めて感じさせてくれるお話でした。編集者さんならではの、絵本ができあがるまでのエピソードなども交えてお話いただき、参加者の皆さんも興味津々で聴き入っていました。



○講演会「教えてサトシンさん 子どもたちに届けたい！絵本の魅力」

日時：平成28年5月14日（土）15:00～16:30

場所：体験学習施設百花プラザ 2階ふれあいルーム

講師：絵本作家 サトシンさん

参加人数：78人

共催：西大寺子どもライブラリークラブ

「おれたちはパンダじゃない」「とこやにいったライオン」などで人気の絵本作家サトシンさんが、西大寺緑花公園緑の図書室に来られました。



講演会では、「子どもたちに届けたい絵本の魅力」を、書き手であるサトシンさんの思いをたっぷり込めながらお話いただきました。ご自身の書かれた絵本を、スクリーンに映しながら朗読したり、曲をつけ歌にしたものを歌ってくれたりしました。

講演会終了後には、参加された何人もの方から「楽しかったです！」と声をかけていただきました。

○文学講座「詩のときめきをあなたに」

日時：平成 29 年 3 月 5 日（日） 14:00～15:30

場所：体験学習施設百花プラザ 2階会議室

講師：成本和子氏

参加人数：21 人

西大寺在住の詩人、成本和子氏を講師にお迎えして行った文学講座です。詩集「天使の梯子」

「生まれておいで」に収録された作品を中心に、創作の背景や作品への思いをお話いただきました。

成本氏の、周りの自然や生き物を見つめる視線の優しさがたくさん詰まった詩の数々。何十年もつけ続けられている「ときめきノート」や、赤ちゃんの時に使っていたお茶碗など、貴重な宝物もを見せていただきながらの、あたたかな雰囲気につつまれた時間となりました。



○「読書通帳」の作成

協力：岡山県立岡山工業高等学校デザイン科生徒



市内の高校生にデザインを依頼して、かわいい読書通帳を作成しました。20冊分の本を記録すると、最後のページが認定証になっており、図書館オリジナルのハコロスタンプを押してもらえる形になっています。読書通帳に読書の記録を残すことにより、たくさんの本を読みたいという気持ちや、100周年を迎えた図書館への親しみを、子どもたちに感じてほしいと思っています。

○展示「図書館の自由パネル展」

期間：平成 28 年 9 月 1 日～10 月 6 日（木）

場所：岡山市立幸町図書館

「図書館の自由」についてわかりやすく知ることの出来る「図書館の自由パネル展」を行いました。入口近くにスペースを設け、市民の方に気軽に見ていただけるよう心がけました。



日本図書館協会作成の図書館の自由展示パネル「なんでも読める自由に読める」を展示し、パネルで紹介されている本や問題になった表現を変えて出版された様々な絵本など関連図書を集め、自由に見ていただきました。有川浩氏の小説『図書館戦争』で注目された「図書館の自由」を題材に、図書館の基本的な役割について、改めて興味や関心を持っていただける機会としました。

○岡山市立図書館創立 100 周年記念講演会
渡辺和子先生講演会 ～咲くということ～

日時:平成 28 年 10 月 8 日(土) 13:00～15:30
場所:岡山市立中央図書館 視聴覚ホール



渡辺和子先生

創立100周年記念ということで89歳になられた渡辺和子先生にご無理をお願いした形での講演会であった。120名の定員に往復はがきによる事前申し込みの応募者は多数にのぼり、結果的に倍率は10倍を超えた。会場は定刻前にいっぱいとなり、菅野和良教育長、市民文教委員長長の東原透市議会議員、講演会に助成頂いた図書館友の会の萩原芳身会長、竹内俊祐さん、田辺栄一さん、藤原菊恵さんの列席も得て開会した。

講演を聴いた参加者の胸に、他の人を思いやる温かい気持ちと、自らの生き方を厳しく問う渡辺先生の言葉が強く心に残るすばらしい記念講演となった。

講演でも触れておられたが、渡辺先生は、聖心女子大学一期生で、以後も学び続けた人生を送った人であり、また、その知識や経験を修道女としての実践を通して、他の人のために、教育のためにその人生を送って来られた人でもある。喉を痛めておられたが、時に微笑みやユーモアを交えながら、多くの著作でも述べて来られた自らの生い立ち、生活で感じたことなどをお話しいただいた。まっすぐに隠さず、また、実践や家族の歴史を通した身を切るような語りは、静かに、また、しっかりと多くの人々の心に届くものだった。

厳しくしつけてくれた母、銃弾に倒れながら娘への深い愛を与えてくれた父への誇り、36歳の若さで学長となりながら新参の修道女としての下積みの仕事を続けたつらい時代、そのような苦しみを経て、「愛は一緒にいる長さではなく深さ」、自分も思いがけないところに置かれたが、「置かれた場所で咲きなさい」という言葉のとおり生きてこられた様子などを、ひとつひとつを思い出すように丁寧に語っていただいた。現在はノートルダム清心学園理事長のお立場だが、自らがすすんで優しくすることがいかに難しく、また、大事かということや、たとえば「あいさつ」を待つのではなく自ら行うことは、学生生活や家庭においても明るさを創り出す力となるし、平和を求める礎でもあるという問いかけは、無力さを抱える一人一人の心に自分でもできることがあるかもしれないという小さな勇気の火を灯したのではないだろうか。

岡山市立図書館は100年を迎えるが、その歴史は、「貧しい人にも教育を」という苦学して財を成したひとりの篤志家の寄付から始まった。図書館はもともと自分だけが本を読めればよいとか、できれば知識を独り占めしたいとかいうことではなく、「知識を万人のものにする」ために市民が共同で本を用意し、お互いに支え合あい、励まし合って利用しようと作られた仕組みであることが改めて思い起こされる。今回の講演で強い印象を受けた、自分をあきらめず大事にすることは、同時に他の人も大事にすることでもあるという思い

は、地域や社会における図書館の在り方にも通じているのではないだろうか。このような図書館があるということは、地域や街の豊かさでもある。

図書館職員は、岡山市立図書館は、「奉仕の精神」が伝統だと教えられてきた。大勢の市民の方々が支え続けた現在の岡山市立図書館を、今後の100年に向けて、引き継いでゆく重責が今を生きる私たちに課せられている。そして、図書館がどのようなあり方を目指すかは、その街の人々に委ねられている。100年の節目に渡辺和子先生の灯した勇気の火が、すべての人のためのより良い図書館づくりを目指す人々の責任ある選択となって、これからの岡山市立図書館の100年を支えていくと信じたい。

最後に、ノートルダム清心女子大学をはじめ、助成をいただいた図書館友の会、ご応募いただいた大勢の市民の方々、裏方を支えた職員などすべての関係者の方に感謝いたします。大変ありがとうございました。

(文責 本山雅一)

追記

渡辺和子先生は、平成28年12月30日にご逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

(3) ココロつながる読み聞かせフォトコンテスト

読み聞かせをしてもらっている子どもの写真を募集。応募総数 37 点から、最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞、佳作のそれぞれ 1 点が選ばれた。

<フォトコンテスト入賞作品>

☆最優秀賞「ぞうくんたちにさわれる！」

稲生理絵さん



点字付きの『ぞうくんのさんぽ』は、内容だけでなく手触りも楽しめ、息子のお気に入り。

☆優秀賞「兄弟で楽しい絵本時間」

中本敬二さん



寝る前の絵本の読み聞かせが日課です。兄が「これは、お花！」と弟に教えてあげているところです。

☆審査員特別賞「おやすみまえ」

赤井美佐代さん



昭和 28 年頃、父は家族の日常生活を撮影し、姉と私は母の読み聞かせに熱中していた思い出の 1 枚です。

☆佳作「カンナの絵本みる？」

河合由香里さん



お気に入りの絵本を手に、赤ちゃんのお世話をする 1 歳児。小さなお姉ちゃん、大活躍しています！

(4) 図書館川柳コンテスト

「図書館と私」をテーマに、「図書館」「読書」「本」に関する川柳を募集。応募総数 348 句。一次選考通過作品 41 句の中から最優秀賞 1 点、優秀賞 1 点、審査員特別賞 1 点、佳作 3 点が選ばれた。

<川柳コンテスト入賞作品>

最優秀賞	一冊に人生決める出会いあり	野村和子
優秀賞	出会う本高鳴る鼓動恋のよう	栄徳ユキ
審査員特別賞	母の読む絵本に瞳かがやく子	西山知子
佳作	図書館で出会い結ばれ孫も出来	神門一途
	懐かしき口絵に出会う児童図書	久山倫代
	懐かしき本のおいが図書館に	生カ縫凜
一次選考通過作 (順不同)		
	図書館もわが家も共に白寿超え	生田晴男
	本のなか自由自在に旅に出る	森本恭子
	誘われて行った図書館癖になる	大本工
	図書館は知識の宝庫生き字引	朱石柳
	時忘れ本に恋する図書の森	蜜柑
	読んだ本私の心の宝石箱	江口枝津子
	「ご予約の…」心ときめく司書の声	中田正範
	玉砕の亡父の轍をたどる図書	新
	興味ない本でも手にとり借りる魔法	かなこ
	ゆっくりと来てネ図書館待ち合わせ	かな子
	豊かさは良い書籍とのめぐり合い	龍せん
	図書読めば家でかなわぬ主人公	長野泰生
	本の中桃太郎にもなれるんだ	花奈
	今日出合う本が明日の我になる	律子
	「猩猩袴」図鑑で調べ知った花	律子
	図書館で君と出会って五十年	けいこ
	休日は図書館父の指定席	光岡さなえ
	図書館は十人十色の道標	清野弘治
	借りた本我が家の大事なお客さま	東家三人生
	人生の生き方探し本を読む	原田康弘
	図書館で傘寿の脳をリフレッシュ	東修一

空き時間ケータイなくても本がある	小太郎
妻借りたラノベ返すのこのわたし	ひとねむり
積ん読の本の重さよ返却日	宮崎薫
読書して未知の世界に遊ぶ僕	森定三竿
スマホ無い私の憩い本の山	たなか
図書館は心の窓を広くする	新田登代喜
みらいにはじぶんもえほんかきたいな	パイナップピー
母になり子どもと借りる本たのし	アップリンゴ
背表紙が読んで読んでと競いあう	野村和子
母から子愛の架け橋読み聞かせ	佐々木ミヒロ
過去連れて図書館通う老ふたり	村田智良
もみじ手のアーンして頬張る絵のいちご	天然果汁100%
子育てのエールをもらった本の森	ゼラニウム
まだ寝ない！絵本見せると布団へ走る	菜々美

川柳コンテスト、フォトコンテストとも作品を紹介するポスターを各図書館で掲示。川柳コンテストの一次選考通過作品もあわせて、図書館のホームページに掲載された。

選考にご協力いただいた岡山県川柳協会顧問の久本にい地先生、視聴覚ライブラリーの池原繁延先生にもご出席いただき、平成28年10月15日に中央図書館で授賞式が開催され、受賞者が図書館との関わりや受賞作品について語る座談会も開かれた。



(5) 郷土資料の展示

1 図書館と展示

図書を広く収集し市民の利用に供することが図書館の本来の目的ですが、図書館法第三条六では「読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を主催し、及びこれらの開催を奨励すること」も努力の対象としており、ここに図書館における資料展示の根拠が置かれています。

岡山市立図書館は、公刊された図書の収集にとどまらず、古文書、歴史的行政文書、写真資料、地図資料、美術工芸品など、郷土・岡山に関する多様な資料を広く収集してきました。それは地域の人々が歩んだ記録の手厚い保存を責務と考える積極的な意思から出たもので、市内の旧家等の古文書の受贈や、市史編纂事業からの引継ぎ等により、それ一つきりしかない資料（公刊図書のように複数のコピーが各地に存在するのではない資料）も、豊富に所蔵されています。

岡山市にも複数の博物館が設置され、図書館の書庫が手狭になってきた現在では、こうした資料の収集はペースダウンしてきていますが、それでも図書館へ寄せられる期待は大きく、岡山市の施設の中では図書館が収蔵するのに最もふさわしいと判断される資料はあり、今後も努力を続けなければなりません。

展示事業は、郷土の歴史資料が市立図書館に所在することを広く示し、関心をもっていただくのに有効な方法です。その際には言うまでもなく、展示する個々の資料について深く理解していることが必要ですが、これまで忘却または看過されていた資料と資料の間の関連性を見出し、新たな解釈と豊かな歴史像で提示できるように心がけています。

2 本年度の展示

岡山市立図書館の設立 100 周年にあたる本年度では、特にそのことを記念して展示を行いました。

「所蔵錦絵とその流れ」

(平成 28 年 4 月 20 日(水)～6 月 12 日(日))

月岡芳年、岡本常彦、二代目長谷川貞信らの絵師たちによる浮世絵版画の展示です。備中高松城の水攻めや、京橋の渡り初め式、維新後の岡山城で開催された国立博覧会、明治天皇の岡山行幸などの、地域のできごとを題材にした錦絵（多色摺りの浮世絵）を展示公開し、木版の高い技術による日本の印刷文化を紹介しました。初展示の二代目長谷川貞信画「錦絵百事新聞」は、明治時代初期に色鮮やかな錦絵がニュース報道にも活用された例として、報道メディア史上で興味深いものです。



二代目長谷川貞信「御巡幸御行粧之図」
ごじゅんこうごこうしやうのず

「戦災前に疎開できた岡山市立図書館の蔵書・再現」

(平成 28 年 6 月 29 日 (水) ~ 8 月 7 日 (日))

第二次世界大戦末期の昭和 20 年、一夜で市街の大半が焼き払われた岡山空襲の日 (6 月 29 日) にあわせての開催です。戦前は岡山市内の小橋町にあった岡山市立図書館も戦災で壊滅的な被害を受けましたが、空襲の直前にリヤカーで運び出され、近郊の寺院へ疎開されて罹災を免れた書物が数百冊あったことを元館長の黒崎義博氏の著書から知り、現在の膨大な蔵書の中からそれらを探し出して再現しました。その結果、時局をあらわす若干の皇室関係図書のほかは、地域の歴史を知るのに重要な近世の手書き本や、海外から輸入された貴重書が最初の (結果としてそれ一度きりとなった) 資料疎開に選ばれていました。それらを再び集めることで過去の図書館員の思いがよみがえったようでした。

「岡山市立図書館の百年」

(平成 28 年 9 月 21 日 (水) ~ 10 月 30 日 (日))

岡山市立図書館の発足以来の百年を振り返り、重要なトピックを取り上げました。市立図書館は大正 5 年 10 月 6 日に岡山県から設置認可され、翌々年の 12 月 8 日に現在の岡山市中区小橋町に開館しましたが、設立の契機となったのは、現在の岡山市北区建部町出身の実業家で、苦学の末に石炭輸入や海運業等で富を築き上げた山本唯三郎からの寄附申し出でした。山本が図書館の建設に巨額の寄附を行った動機を残された資料から探るとともに、彼の「教育はひとり学校のみには俟つべきものではない」(開館記念式典のときの式辞) との言葉を受けて市立図書館がたどってきた道のりから、家庭配本や自動車文庫等の読書普及事業や戦災からの復興など、市民と手を携えて歩んできた歴史を紹介しました。



巡回文庫の木箱

「所蔵の古文書にみる岡山城下町の酒造と酒販」

(平成 28 年 11 月 2 日 (水) ～12 月 28 日 (水))

岡山市内と備前地域の 13 機関(図書館、博物館、記録資料館、埋蔵文化財管理センター)が連携し、「ひろがる酒の輪」と題して酒を共通テーマに行った展示の一環です。米から作られる酒は日本の風土と文化に深くかかわり、地域ごとに多様な資料が残されています。各機関がそれぞれの特徴を生かしながら所蔵品や近隣地域の資料を展示する中で、当館では幕末に岡山城下町の町方惣年寄まちかたそうどしよりを務めた国富家から寄贈された文書を中心に、岡山城下町における酒造と酒販を古文書から読み解く展示を行いました。

関連の他の資料保存機関とつながっていく、これからの図書館のあり方を模索する試みともいえる展示でした。



展示の様子

「第 32 回坪田譲治文学賞記念、坪田譲治展 ～故郷への思い」

(平成 29 年 1 月 5 日 (木) ～3 月 5 日 (日))

岡山市出身の児童文学者、坪田譲治を記念して岡山市主催で設けられている坪田譲治文学賞の発表の時期にあわせて、遺族から寄贈された資料などにより坪田譲治展を例年開催しています。本年度は、生まれ故郷の御野郡石井村字島田(現在の岡山市北区島田本町)や、旧制中学時代に通った金川(現在の岡山市北区御津金川)に関連する資料を中心にして行いました。少年時代の読書体験と、漢詩文への傾倒と、金川中学で学んだ教師たち(当時の金川中学の教師陣には、岡山の地域史研究において大きな業績を残した、そうそうたる顔ぶれの人々が集っていました)にまつわる話題から、坪田文学の由来を考えました。

「平成 28 年度 地球環境問題ポスターコンクール展」

(平成 29 年 3 月 11 日 (土) ～4 月 2 日 (日))

地球環境の現状や問題について理解を深めていただくため、岡山市環境保全課が募集した岡山市内の小学校 4 年生から中学校 3 年生までの生徒のポスター作品の展示を、平成 25 年度から継続で開催しました。

3 展示の役割

図書館の最大の使命は、いうまでもなく、ひとりひとりの利用者が求める資料を確実に提供することにあると考えられます。しかし、大切な資料を保存して末永く後世まで伝えるには、保管環境の整備や、取り扱いに習熟した専門的知識のある人材の配置など、相応

のコストもかかります。図書館の資料が市民にとって貴重なものであり、地域のこれまでの歩みを知るうえでかけがえのない情報源であることが広く認められていなければ、資料保存へ向けて市民からの手厚い支持を得ることはできず、将来の世代への引き継ぎが覚束なくなってしまう。平常時の管理だけでなく、不測の大規模災害がおこったときいかに対処し、復興できるかということも含めて、長期的な視野でみたときに岡山市立図書館の資料が後世に残すべき大切な遺産であるとの認識が、市民と深く共有されていることが重要です。そのためには資料の紹介にも努めなければなりませんし、展示はその有効な方法のひとつとして位置づけられます。

思い出のページ



平成 16 年
中央図書館のにぎわい



平成 20 年 幸町図書館 1 階 児童コーナー
クリスマス ミニ・コンサートの様子



平成 22 年
西大寺図書館閉館の日

8章 回想



昭和 47 年頃
移動図書館の様子

基本を大事にする図書館

菱川 廣光

岡山県総合文化センター（現岡山県立図書館）に入ったのは1971年でしたから、岡山市立図書館と連携・協力しながら仕事をしたのは後半の40年近くでした。

1971年は『市民の図書館』（日本図書館協会）が出版された翌年です。「公共図書館の基本的機能は、資料を求めるあらゆる人々に、資料を提供することである」から始まり「貸出こそが図書館の仕事の最も重要な基礎であり核心である」とした運営指針は、全国の公共図書館に大きな変化をもたらせました。当時、岡山市立図書館でも新たな図書館への模索が始まっていたと聞いています。施設を改造したり、貸出方式を簡素化したり、予約制度を導入したりと、市民への資料提供を主眼にした取り組みが次々となされています。「日本全国、金太郎飴的な図書館ばかりではいけない。地方には地方のやり方がある」と、まだ図書館変革の動きに懐疑的な意見を持つ者も少なくありませんでしたから、現場では熱い議論がなされたのではないかと想像します。

岡山市立図書館の努力は、1970年代からの個人貸出冊数の大幅な伸びとなって表れています。70年代80年代90年代と上昇しつづけ、政令指定都市になった2009年前後からは400万冊（市民1人当たり6冊以上）を超え全国でも有数の活動となっています。

岡山市立図書館の中心にあるのが1983年に新館開館した中央図書館です。初代館長の黒崎さんは、一時期、図書館から市長部局に異動になり、館長になる前には市長公室秘書課長でした。市長と全国の都市に出かけることも多く、当時「市図書館サービス網計画」が進行中であったこともあり「時間があれば市長をすぐれた図書館に案内した」と話しておられました。司書としての経験が長い黒崎さんの説明を受け、多くの図書館を視察できた市長は、自信を持って中央図書館の建設がすすめられたのではないかと思います。そんな関係もあり、行政と図書館現場との風通しもよかったはずで、岡山市立図書館の職員も時代が求めている新しい図書館を新館に具体化できたのではないのでしょうか。中央図書館の開館で市民の図書館としての足取りは加速し、さらに10年後の幸町図書館の開館が加わり、岡山市立図書館は全国の図書館界をもリードする図書館として発展してきました。岡山市立図書館の活動が活発化することで、県総合文化センターもいい意味でのプレッシャーを受け、市町村図書館の支援が第一義という県立図書館のスタンスが明確化していったように思います。

いま課題解決支援型図書館という言葉に象徴される、公共図書館としては少し窮屈な図書館がもてはやされています。しかし、図書館が受け持つ世界は広いものです。岡山市立図書館はそうした時流とは一線を画し図書館の基本を大事に堂々と歩んでいます。100周年をさかいにさらに前進され、県内といわず、日本の公共図書館のリーダーとして活躍されることを願っています。

山陽学園大学特任教授（元岡山県立図書館）

「古典を楽しむ会」の思い出

竹内 俊祐

昭和四八年の夏、赤木館長らと備前市の「白鳥文庫」を訪れた。(白鳥家には与謝野鉄幹、晶子氏が訪れ、県下各地をたずねている)

山裾の文庫では珍しい本を拝見した。その時、読書会の話があり、古典を読む会が発足した。

初め、和泉式部日記を読み、続いて更級日記、平家物語、万葉集など読み進んだ。会は、二回土曜日の午後、幸町の図書館であったが、当時は公民館が各地にはなく、多くの方が参加してくださった。

そのうち、源氏物語を読むこととなり、難解な大作であるが、いろいろな参考書を調べて読み、二十年ばかりかけて読み終えた。

テキストは新潮日本古典集成を用いた。そのうち、会員も入れ代わっていたので、重ねて読むことになり、より深く、楽しく読むことができた。源氏物語の人間理解の奥深さ、恋愛心理の表現の精妙さに魅せられていった。会では松本功先生の司会で、会員が前もって分担して訳し、みんなで鑑賞する形になった。読み進むほどに作品の魅力にひかれて二回読み終えたがさらに三回目を読むことになり、現在は須磨の巻を読んでいる。

千年も昔の宮廷生活を中心にした作品が、現代の人々の心にこれ程の感動を与えることに驚くばかりでありである。

読書会とも関連して、毎年文学散歩が行われた。思い出すままに記してみよう。

昭和四九年、山口県の津和野に一泊旅行で赤木館長らと同行した。津和野は森鷗外の故郷で「キタ、セクスアリス」に描かれていて、印象深い旅であった。また、青江文次先生の計画で奥の細道の跡をたずねた。仙台、鳴子、最上川下りで酒田に行った二泊の旅行は忘れられない。また、源氏物語にゆかりの、京都、蘆山寺、谷崎潤一郎ゆかりの須磨・明石、さらに津山・勝山など。また、平家物語にゆかりの室津、屋島、大三島など、思いめぐらせば名跡も、同行した方々も懐かしい思い出がよみがえってくる。



(古典を楽しむ会 会長)

(1)

〈図書館はだれのもの〉—生まれかわった幸町図書館—

筒井 悦子

1988年3月5日、S紙上で、「幸町図書館を文化性の高い複合施設に」との議会答弁を目にしたとき、私は一瞬目を疑った。読み聞かせやおはなしを通して子どもたちに読書の楽しさを伝えていた私は、素朴に、図書館の本がなくなるのではないかと恐れ、それまでお話を聞いてくれていた子どもたちはどうなるのだろうかと胸を痛み、さっそく所属する岡山県子ども文庫連絡会に知らせた。まず社会教育課に直接出向いて実情をたずねてみると、岡山市制百周年を記念して、幸町図書館をイベントカルチャープラザとして再整備すると言われる。更にメルヘンの館とか、本は少なくともオンラインで対応するとか、土地の有効利用を考えるとかといった、思いがけない言葉ばかりが返ってきた。このことは、市民にも図書館職員にも全く知らされていなかったのである。

私たちは、自分たちに何かできることはないかと度々会を開いて相談した結果、本が無ければ図書館とは言えない、地区館としての存続も危うい、市の文化を低下させることにもなりかねないと「幸町図書館を守る会」を立ち上げることに踏み切った。私の存じ上げている、詩人の山本遺太郎さん、永瀬清子さん、昔話研究家の稲田浩二先生ご夫妻、それに筒井を加えた五人を呼びかけ人として、1988年8月8日、幸町図書館で、岡山県子ども文庫連絡会を中心に一般市民、市民団体、図書館職員、有識者、マスコミ各社が集まって結成式を挙げた。幸町図書館の名称を残し地区館として一層充実発展させること、図書館として独立した管理運営をすること、子どもの本コーナーは一階になど、いくつかの項目をあげ、「幸町図書館を守り発展させるためのアピール」や「幸町図書館建て替えについての要望」をもって、暑い夏の間、署名運動に取り組んだ。その結果、23,091人の賛同をいただくことができ、市長に提出した。

陳情書の書き方も知らない素人の私たちだったが、元中央図書館長の黒崎義博さんのお宅にお邪魔してお知恵をお借りしたこともあった。文庫連の会員は、自分たちでワープロを打ち印刷した要望書を、朝早く議員の机の上に置きに行き、度々議会を傍聴したり、直接議員に会いに行ってお願ひしたりした。マスコミ各社も積極的に協力してくれ、市民の関心も高まって市民からの投書も相次ぎ、講演会やシンポジウムも何度か開かれ、あのころは「図書館」を合言葉に岡山市が燃えていた。

行政もだんだん私たちの願いが単なる反対運動ではない、純粹によりよい図書館を願う市民の気持ちであることを理解するようになり、市が考えた改築計画素案に対し私たちの望む図書館像について出すようにと依頼された。図書館司書とも意見交換して「私たちの願う見直し案」を作成し教育委員会に説明しに行ったが、最終的には守る会の要望がほとんど全面的に生かされる形になった。当時の社会教育課のI次長は、全国の図書館を見て回られ、写真のファイルを嬉しそうに見せて下さった時には、本当にうれしかった。また、

休館の間の代替施設については全く考えられておらず、ホテルの一室でもといった珍答もあったが、これも陳情によって駅西側にプレハブの図書館ができた。その片隅でミニクリスマス会をしたときには、近所の子どもたちがたくさん来てくれて一緒に楽しい時を過ごせたのも懐かしい思い出で、今でも脳裏に焼き付いている。それまで余り図書館を利用したことのない人たちには大変喜ばれ、当時の西大寺図書館を上回る利用があり、身近に図書館ができれば人が集まるという好例となった。

幸町図書館は、1988年から2002年まで、超党派による市民の熱い思いを訴え続けた結果うまれた、まさに市制百周年にふさわしい図書館と言える。改築後25年、今も幸町図書館は多くの市民に利用され賑わっている。だがこれで終わるわけではない。目まぐるしく変わる時代の中で、図書館を活用し育てていくのは私たち市民である。実は「守る会」は、「図書館を育む岡山市民の会」⁽²⁾と名称を変えて今も存続している。幸町図書館に寄せた熱い思いが、岡山の心として、これからも末永く続いていきますように願っている。

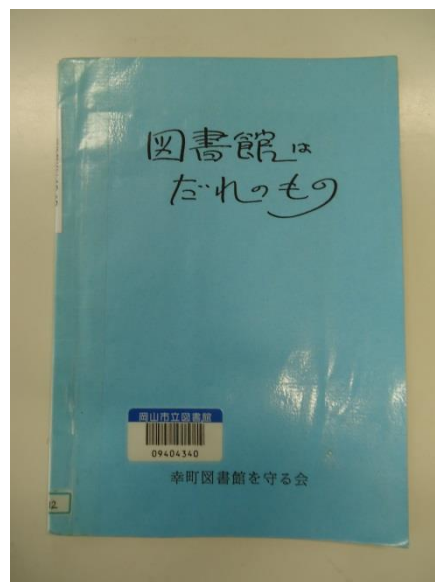
(岡山市子ども文庫連絡会会員・図書館を育む岡山市民の会代表)

注 (1)山本遺太郎氏命名冊子

(2)永瀬清子氏命名



平成元年 幸町図書館仮設館



平成2年作成
「図書館はだれのもの」
幸町図書館を守る会／刊



平成3年5月12日
幸町図書館完成式

岡山市立図書館 100 周年に寄せて

田淵 漣子

岡山市立図書館が平成 28 年 10 月で 100 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。岡山市立図書館のホームページを開くと大正、昭和、平成と幾多の変遷を経て今の図書館がある事を読み取ることができます。改めて図書館設置に関わられた関係者の方々、歴代館長様、職員の皆様方のご苦勞を偲ばずにはられません。



国富文庫

『異国船之記』（一枚物）
を見る会員

私ども「岡山古文書を読む会」と市立図書館のご縁は、昭和 47 年 6 月、幸町図書館において図書館主催の古文書解読講座が開催され、当会の柴田一顧問（現就実大学名誉教授）が講師として招かれたのが始まりでございます。当時の館長は赤木庚さん、解読講座を担当された司書は平井洋一さんで大変お世話になったと先輩より聞いております。

後に館長になられた平井洋一さんは、平成元年、当会発行の『古文書のすすめ』第 2 号で『当時、私は「古文書を読む会」の担当を命ぜられその教材づくりに追われたことを思い出す。わが市立図書館には国富文庫など古文書を所蔵している関係で教材にはこと欠かないが、講義が始まって受講生の解読のテンポが早くなり、次から次へと教材の原稿作りが必要となり、当時コピー機器も持っていなかったため……』と述懐されています。発足当時は今のような複写機はなく、テキストも「謄写ファックス」から所謂「青焼き」と呼ばれる複写機を使用し、千枚を印刷するのに千回手をかけるといった苦勞があったということです。

現在は貴重資料の劣化を防ぐ観点から、原本を複写するという形ではなく写真を撮り、コンピューターで画像処理をするという時代になりました。図書館でも徐々に貴重資料のデジタル化に取り組まれておられ、職員の方が一枚一枚写真を撮られている姿には頭が下がります。

私どもは、年に一度テキスト選定のため実際に古文書を手にとって、書かれた当時の紙の匂いや、筆遣いなどを感じながら本物の古文書に向き合える幸せを感じております。このようにして選定したテキストを会員が例会で読み、翻刻・製本して図書館に献本しております。その数は会が始まってから 60 タイトルを数えるまでとなりました。まだまだ膨大な貴重資料のほんの一部しか読み進めてはおりませんが、戦災で焼失を免れたり寄贈されたりした貴重な資料を後世に残すため何らかのお役に立てればと考えております。



私どもの会の目的は、「古文書の収集・解読・刊行などを通じて、古文書への理解を深めるとともに地域文化の振興に資する」とあります。入門講座開催時の講師役や献本などを通じて少しでも市民の方に古文書に関心や理解を深めていただければ大変ありがたいことです。

おかげさまで、当会は平成 29 年 2 月 5 日には会が設立されて 45 年、1000 回目の例会を迎えることができます。これもひとえに貴館の多大なるご協力・ご支援の賜と深く感謝申し上げます。

結びに、岡山市立図書館が 100 周年を迎えられましたことに、改めてお喜びを申し上げますとともに、ますますのご発展と関係者の皆様のご健勝を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

(28. 11. 30 記)

(岡山古文書を読む会 会長)

35 年間

萩原 芳身

私は、昭和 40 年から平成 14 年の間で、35 年間岡山市の図書館に在籍しました。その間での大きな出来事は、中央図書館建設でありました。中央図書館の入口の所に、「知恵は平和なり」という碑文があります。昭和 58 年に建設された時の記念碑であり、当時の岡崎平夫岡山市長の名前が刻まれています。

新中央館は、今までの中心館の建物延床面積の約 3 倍の 6,415 m²の広さになりました。行政のトップが決断すれば、できるものだなあと思いましたが、幸町図書館や県立図書館の問題では、若い図書館員が市民をまきこんで力を発揮しました。



中央図書館 1 階カウンター

私はいろいろの部門の仕事をしましたが、図書館業務のコンピュータ化の時は困りました。田舎の町誌の執筆の一人になったり、退職後には急逝された黒崎義博さんのあとをついで図書館友の会の役員になったりしました。

岡山市の図書館が、中区や西部に地区図書館を増やして益々繁栄することを期待します。

(岡山市立中央図書館元館長)

館友会の思い出

竹原 嘉念子

図書館創立百周年、誠におめでとうございます。

創立以来、奉仕一筋の図書館道を歩まれる皆様のご健勝心よりお喜び申し上げます。

昭和四十四年二月、岡山市・西大寺市合併により、岡山市立図書館西大寺分館勤務となり、職員は司書一人、主事一人、分館長は市教委西大寺分室長兼務でスタート、実務指導は本館の黒崎係長となりました。

三月に入り祝賀の館友会が後楽園で開かれました。本館の高祖館長が牛窓の本宅より「千寿酒」を持ち込まれ、特撰うま酒で乾杯しました。そのうち平井幹事からの指名で、私は「青い山脈」を岡山弁で歌いました。

「若こうて あかりい歌声に・・・

あーうえー山脈・・・」

続いて分館長、沢井主事、私の三人で西大寺音頭を歌い大拍手を頂きました。やがて黒崎係長の号令で、みんな立ってスクラムを組み「同期の桜」の大合唱です。

「貴様と俺とは同期の桜 同じ兵学校の庭に咲く

咲いた花なら散るのは覚悟 見事散りましょ国のため」

この歌が流行したのは太平洋戦争中でしたのでとても緊張したのを覚えています。

昭和四十五年、赤木館長の時代に入り、黒崎係長は館長補佐に昇任。

この年の館友会では忘れもいたしません。黒崎さんの「安来節・どじょうすくい」が披露されました。その折、皆の瞳にフンドシが…。私は踊りのために身につけられたのだと思っていましたら、平井幹事が張切って「黒さんはフンドシの愛用者で母上の手作り」と説明があり、大拍手となりました。その後、館友会も岡山市立図書館員の誇りと自覚を持って度々開催されましたが、皆さんお酒に強い方が多い割には静かで、黒崎館長補佐の指導の「24 時間図書館員たれ」の実践例の如く図書館奉仕の話に移行して研修会の様になるのです。私はお酒に弱く乾杯のみで、あとはその場を明るくしようと西大寺流で頑張っていました。「ここに幸あり」「いつでも夢を」「幸せなら手をたたこう」—みんなで一時には「柔」「王将」など。

昭和 49 年 4 月、黒崎館長補佐、本庁の労政課長補佐に転任、送別会をご本人の希望で、牛窓の「千寿」の旧酒蔵の近くにある国民宿舎で開かれました。笑顔のたえない方なのに、今迄見たことのない悲愴な表情で出席され、暗い館友会になりました。私は軍歌「さらばラバウル」のかえうたで

「さらば黒崎さん 又会う日まで しばし別れの涙がにじむ

奉仕一筋 図書館道を 力を合わせて歩みます」



胸がつまり、やっとのことで捧げることが出来ました。

1 か月後、思いがけず大幅な館内異動が発表され、私は本館の自動車文庫へ、西大寺分館へは田井司書が着任となりました。体力的にはきびしかったけれど直接に住民奉仕出来る喜びは大なるものがありました。この頃の私は館友会を途中退席して家で休養につとめていました。

昭和 50 年 4 月、市教委指導課より堀館長が着任。創立 60 周年記念行事「めずらしい本、なつかしい本展」を一番街ホールで開催、記念誌発行に取組まれました。元館長・吉岡三平先生（嘱託）は老骨に鞭打ってのご尽力大なるものがありました。

堀館長時代、私は郷土資料室へ更に庶務係に移りました。この時、館友会幹事となり、私に何が出来るか考えた末に、忘年会は両備グループ三代・松田基社長のご尽力で後楽園外苑の「荒手茶寮」で開くことが出来ました。ここは池田隆政氏と順宮厚子内親王さまのお見合いの場所であつた岡山では超一流料亭なのです。大広間を使わせて頂き、田井さんのリクエストで「瀬戸の花嫁」を歌った記憶は、私の中で宝物となっております。松田社長のご尽力で格安料金で館友会費で支払可能でした。両備グループ二代・松田壮三郎社長は、昭和 31 年 10 月より 2 期 8 年間の西大寺市教育委員長報酬を全額図書費にあてられ本当に有難いことでした。忘年会のことは堀館長と相談の上で進めたので、60 周年記念誌持参で御礼に行つて下さいました。

昭和 58 年 4 月、岡山市立中央図書館の新装開館。初代黒崎義博館長 9 年ぶりの振り返りで敏腕をふるわれ、昭和 61 年度・日本図書館協会より岡山市立図書館は総合評価日本一の表彰を受けました。又、館長自身も社会教育功労者として文部省より表彰されました。

その時の祝賀会で、私は祝意を込めて「かえうた」を熱唱しました。

- 一「波止場しぐれの夕暮は お寺の鐘にもわびしさつる
ここは瀬戸内牛窓みなと 雨にけむるよネオン町
今宵は酔いたい千寿酒」
- 二「あれは南備の海運丸 船の向こうに四国が見える
ここは瀬戸内牛窓みなと 江戸期の姿を今に残し
新し日本のエーゲ海」



大変に喜んで下さり、その後、日本図書館協会事務局長の菅原峻先生が来岡の折、牛窓で黒崎館長と三人で昼会食、原風景を前にこの歌を聞いて頂き光栄な事でした。このご縁により「西大寺図書館ものがたり」を手製ながら日本図書館協会と国立国会図書館に納本していただき、ありがたく感謝しております。

末筆となりましたが、岡山市立図書館の皆様の益々のご活躍とご幸運を心よりお祈り申し上げます。

(岡山市立図書館元職員)

岡山市立図書館の 30 年

田井 郁久雄

私は 1970 年から 2000 年まで約 30 年、岡山市立図書館に勤めた。その間、図書館の年間貸出冊数は約 5 万 3 千冊から 400 万点近くまで、70 倍以上も、毎年のように伸び続けた。そのような図書館発展の時期に、司書として仕事ができることを幸せに思っている。

利用の増加とともに、利用する人たちの層も、利用される資料の幅も大きく広がっていった。図書館が市民の日常の暮らしを豊かにしていることが、カウンターやフロアで接する人たちの言葉や表情から、肌で感じることもできた。本を読んだり、資料を調べたりすることは、地味だが、生きてゆくうえで欠かすことのできない働きをしている。図書館には貴重な資料もあり、平凡ともいえるふつうの資料も数多くあるが、それぞれが、利用する人によって大切な意義を持つ。人によっては俗悪と考えるような小説を、末期ガンの人に何度も切実に求められ、予約サービスによって一生懸命応えた若い頃の経験を忘れることができない。一人一人の利用者の求めるものを、誠実に、徹底して提供するのが図書館の基本的な役割であることを、私は図書館の仕事を通して学ぶことができたと思っている。

岡山市立図書館は、長年にわたって、司書がカウンターやフロアで市民に接しながら、市民の資料要求を的確に知って応えるという図書館サービスのあり方を、意識的に追及してきた。これがサービスの水準を高めるとともに、コストの面でも、最小の経費で最大の成果をあげる結果につながったことは、類似都市と統計を比較してみれば明白である。

数年前の図書館アンケート調査で、二千人以上の回答のうち五百人以上の方の自由意見が寄せられたが、その中で特に目立ったのは、職員の親切で行き届いた、司書に相応しい対応を喜び、評価してくれる声が非常に多かったことである。このような内容の自由意見がこれほどまで数多く寄せられたのは、全国の同種の調査でもほとんど例がない。岡山市立図書館のサービスのあり方と職員の対応の姿勢は、まちがいなく全国に誇ることでできる特徴なのである。しかしその一方で、職員の方たちの仕事の状況は、利用者から見ても、統計的にも、あまりにも負担が大きくなっていることは明らかで、かつての職員として、現在の利用者として、胸が痛くなる。

30 年の任期中に、中央、幸町、伊島の三つの図書館の建設・整備にかかわることができたが、特に幸町図書館は、当初の計画に反対する市民運動に対して、行政側も最終的には市民の声を適切に受け止め、計画が変更された図書館だった。私は計画変更後に建設・開設準備の担当職員となり、司書としてのそれまでの知識や経験をすべて注ぎ込む気持ちで取り組んだので、とりわけ思い出が深い。20 年以上過ぎた現在も多くの市民に利用され、年間貸出数は 100 万点を超えている。私自身、いま毎週この図書館を利用している。

残念なのは、長年の課題である図書館整備計画の実現が進んでいないことである。2014 年度、岡山市立図書館全館の経費は市民一人当たりわずか 840 円程度に過ぎない。この経

費で 430 万点以上の貸出、調査・研究の手助け、資料保存、多彩な催しが展開され、多くの市民に喜ばれている。さらに幅広い市民が、どこに住んでいても図書館を利用できるよう、いま少し経費を増やして図書館を整備することは、決して無理な要望とは思えない。暮らしやすい街づくりのために、図書館がさらに身近になることを心から願っている。

元広島女学院大学准教授（元岡山市立図書館職員）



昭和 58 年頃
中央図書館 1 階の様子



平成 4 年
幸町図書館 2 階の様子

ボランティアと市民と図書館

岡山市立図書館では、「奉仕の精神」で図書館サービスに取り組むことを伝統としてきた。一方で、本当に多くの市民の方々が、図書館の発展を支えてきた歴史を持っている。

岡山市立図書館友の会や、「図書館活動の記録」の章の中の障害者サービスの項目で紹介されている朗読奉仕の会をはじめ、子どもの読書環境を豊かにするために活動を続けている岡山ストーリーテリング研究会、岡山県子ども文庫連絡会など実に多くの市民や有志の皆さんが図書館サービスをボランティアとして支え続けてきてくれた。また一方では、市民として図書館の発展を望む要望や意見を表明するなど、厳しい視点を持ちながらも図書館の強力な応援団でもあった。

市民参加という事では、図書館協議会があったが、これは平成12年の全市的な審議会等の整理の中で廃止されている。

近年では、市民の方々との連携だけでなく、県内各大学の児童文化サークルや、子どもたちの学習支援を行う学生の方々、学校の図書委員の生徒さんや学校司書など様々な連携によって多彩な図書館サービスが行われるようになってきている。

他にも「回想」や「各図書館の紹介」の章で紹介した、古典を学んだり、文章を作成したりするグループ、ミニコンサートの演奏者の皆さんや布絵本作成ボランティアグループ、絵本や紙芝居の読み聞かせ、人形劇や影絵、腹話術や大学のロボット研究会、科学教室や環境に関する講座の講師まで、紹介しきれないほどの多くの皆さんに岡山市立図書館は支えられてきた。「行事・集会活動の記録」の章で紹介した中にも多くのボランティアの支えがある。

図書館サービスは決して一方通行ではない。市民の方々の継続的な協力があるからこそ、図書館サービスは豊かになり発展してきた。これまでの百年を大切に、そしてこれから先の百年も、岡山市立図書館は市民の方々と共に歩んでいきたい。

